

神戸学院大学 第3次中期行動計画 中期計画（第3層） 2023年度達成度評価表 分野：教育

		評価	理由
中期目標	三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。		
中期計画	1 学士課程教育の質的向上の推進	A	カリキュラム・アセスメントについては、全学教育推進機構を中心に大学全体レベルで継続的に実施しているほか、学部等のカリキュラム・アセスメントの進捗状況についても確認できており、評価できる。また、キャリア教育については、特に人文学部におけるキャリアセンターと協力した学部独自のキャリア支援の実施や、心理学部において学部学生全員参加型の定期的なキャリア支援とあわせてIPE（専門職連携教育）の視点からもキャリア教育を行っている点は、それぞれ長所と認められる。また、検定試験・資格取得支援においては、心理学部において公認心理師資格取得に向けた大学院進学率の向上を目指し、心理学検定の受験及び合格状況について分析や議論を行い、受験の促進につなげている点が長所として評価できる。今後も、三つのポリシーを軸とした学士課程教育の質的向上に向けたあらゆる取り組みが進むことを期待する。
中期計画	2 大学院課程教育の質的向上の推進	B	各研究科において、三つのポリシーに基づく恒常的なPDCAの実施は問題なく進められており、シラバスチェック、FD活動、学修成果に関するアンケート等を行うことができている。中でも心理学研究科においては、公認心理師試験の受験率及び合格率向上に向けた様々な取り組みを実施しており、大学院生への個別指導や勉強会等が促進されている。一方、一部の研究科において収容定員に対する在籍学生数比率が低く、定員管理が厳しい状況にあるが、大学院入試の受験者確保に向けて、各研究科において、広報の強化、入試説明会の内容充実、他大学との連携協定締結、他大学院の情報収集等を積極的に行っている点は評価できる。今後は、社会人の大学院進学推進方策を含め、全学的な大学院課程における定員管理の改善に向けた取り組みについて検討を急ぐ必要がある。

中期計画	3 教職課程教育の質的向上の推進	A	<p>教職課程担当教員と教職教育センターにおける教職教育サポート室の指導員間の連携強化により、教員採用試験対策講座の実施、メンター制度の活用、教職ハンドブックの発行等、教員を目指す学生に対する指導が充実しており、教員採用試験合格者数も前年度比で約2.2倍に増加している。また、新たにデジタル教科書を導入することにより、実際の教育現場の変化にも対応できるような取り組みが進んでおり、評価できる。今後も、教員免許状取得者および教員採用試験合格者のさらなる増加に向けて、取り組みの継続と発展を期待する。</p>
中期計画	4 FDの推進	B	<p>専任教員のFD活動（研修）への参加率は引き続き100%を達成しており、参加者の求める多様なテーマでの実施ができています。学部・研究科固有のFD活動について、心理学部では、FD活動の充実に向けて学部内で検討を重ねて内容を工夫したほか、学部学生と教育改善についての懇談を行う等、積極的なFD活動の実施及び学部全体の課題を広く検討できている点は長所である。また、薬学研究科では、「知の創造セミナー」をはじめとする講演会を積極的に企画・開催し、最先端の研究に関する動向等の共有、大学院人材の確保、研究活動活性化等につながる取り組みが実施できている点は、他研究科にも推奨できる取り組みであり長所である。共通教育センターでは、全学教育推進機構との連携のもと、非常勤講師参加型のFD研修会を継続して実施できている。今後も、大学全体及び学部・研究科固有の実質的なFD活動の実施を期待する。</p>
中期計画	5 教育環境の整備充実	B	<p>学内施設・設備について、必要に応じて整備の実施及び機器備品等の更新ができています。また、情報環境については、コロナ禍以降に拡大した情報機器の利用状況の実態に即して、整備充実について優先順位の高い箇所から着実に整備を進めることができしており、さらに学生の利用状況を踏まえて今後の更新に向けて現状把握に努めている点は評価できる。2024年度は、新たな実行計画のもと、無線LAN環境のさらなる拡充に向けて取り組みが進むことを期待する。</p>

中期計画	6 教育のグローバル化推進	B	海外の協定校からの交換留学生の受け入れ及び本学学生の海外への留学状況についてはコロナ禍前の実績に戻りつつあり、海外研修も実施できている。また、留学先の視察や外国人教員の採用も実現できている。しかし、一部海外研修やプログラムの参加学生数が伸び悩んでいる点は課題である。2024年度以降は、新たな「国際化ビジョン2024」のもと、全学的な国際化推進に向けて、より一層取り組みが進むことを期待する。
中期計画	7 全学的なデータサイエンス教育の充実	B	オンデマンド授業による実施の効果もあり、データサイエンス関連科目の履修者数が昨年度を大きく上回ったこと、オンデマンド授業においても学生との双方向性が確保できるよう、学部横断で両キャンパスに科目担当者を配置して学生からの質問に回答できるように工夫したこと、また、授業アンケートの結果が良好であったことはいずれも評価できる。履修者確保について、当初の計画以上に成果があるものの、履修者の増加に伴う担当教員の負担が増大している点、単位未認定の学生の割合が多い点については課題である。2024年度は、データサイエンス教育のさらなる推進に向けて特任講師の採用及び配置が決まっており、履修者の継続的な確保及び学生の学修成果の向上に資する授業方法の検討が望まれる。
中期計画	8 附属中学校・高等学校との連携推進	B	附属中学校・高等学校の生徒に対して、キャンパスツアー、大学紹介、高大連携授業、入学前スクーリング等の連携事業を各学年の状況に応じて実施することで、本学への進学につながる意識の醸成や学部選択のミスマッチ防止を図ることができており、評価できる。今後も、附属高等学校接続型入試志願者数のさらなる増加とそれにつながる高大連携事業の発展、高大接続事業の同入試の効果検証に基づく推進が望まれる。

評価 S：目標よりはるかに上回る、A：目標をやや上回る、B：おおむね目標どおり、C：目標をやや下回る、D：目標をかなり下回る